

第4次砺波市地域福祉活動計画

令和3年度評価

令和4年5月

社会福祉法人 砺波市社会福祉協議会

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和3年度評価（報告）

1 砺波市地域福祉活動計画

第4次砺波市地域福祉活動計画（以下「地域福祉活動計画」という。）は、「互いに助けあい 励ましあう あたたかいまちづくり」の実現に向けて、地域住民が主体となり地域福祉を推進していくための活動の方向を示した5か年（令和3年度から令和7年度まで）計画です。

2 砺波市地域福祉活動計画の評価

この評価は、地域福祉活動計画に掲げる各実施計画に対して行うものであり、砺波市地域福祉活動計画評価委員会（以下「評価委員会」という。）において、前年度の事業実績及び計画の進捗状況について評価・検証いただくものです。

3 第4次砺波市地域福祉活動計画 令和3年度の評価の方法

(1) 砺波市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）において、11の実施計画の令和3年度における実施状況等を確認し、以下のとおり、4段階評価の自己評価を行いました。

(2) 市社協の自己評価をもとに、評価委員会（令和4年4月28日開催）にて実施状況等を評価・検証し、以下のとおり、4段階評価の総合評価を行いました。

4段階評価

3	計画どおり進んでいる。 (8割以上)
2	概ね計画どおり進んでいる。 (7～8割程度)
1	あまり進んでいない。 (4～6割程度)
0	進んでいない。 (3割以下)

4 評価の結果（まとめ）

評価結果は「評価シート」のとおりです。

5 令和3年度の評価を踏まえて

市社協では、この評価を踏まえ、評価シートの「今後の方向性」で示した部分を重点事項として、令和4年度事業計画の実施と地域や関係機関と一緒に福祉課題の解決に向けて取り組み、地域福祉活動計画の推進を図っていきます。

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和3年度評価シート①

地域福祉活動 計画体系	基本目標	1 住民主体の地域づくり
	方向性	(1) 組織の充実と地域福祉に対する意識の醸成
	推進目標	① 地区福祉推進協議会と連携し地域課題の解決につなげます
	実施計画	地区福祉プランの支援
	ねらい	策定された地区福祉プランを基に、各地区での福祉活動の推進に向け支援することで、地域課題の解決と福祉への意識付けにつなげます。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
成果を 図る主 な指標	計画の説明会を開催した地区数	18 地区				
	地区懇談会等へ社協職員の出席回数	65 回				

主な 取り組み	<p>■各地区福祉プラン実施に向けての活動支援協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3次地域福祉計画及び第4次地域福祉活動計画の推進を図るため、地区に出向き住民に対して各計画の説明を行った。(市と社協) ・地域福祉計画等の説明会において、地区福祉プランの説明も一緒にしていただき、我が事の計画として理解していただいた。(各地区) ・広報で21地区の地区福祉プランについて発信した。(社協) ・社協ホームページで3つの計画を発信した。(社協) ・3地区で地域の福祉課題を掘り起こすことを目的に、社協職員が出張する相談窓口の設置の検討を行った。令和4年度よりモデル事業として実施予定。(3地区と社協) ・新型コロナウイルスの影響により、地区懇談会等の開催が難しい状況であったが、いくつかの地区で地域課題に向けた研修会や懇談会の開催ができた。(地区と社協) <p>主なもの：</p> <ul style="list-style-type: none"> 東野尻地区：認知症サポーター養成研修、地区懇談会 般若地区：ケアネット活動研修 雄神地区：地区懇談会 南般若地区：地域福祉研修 青島地区：地区懇談会、安心ポケットの普及 種田地区：地区懇談会、地区社協活動のPR 					

成果と課題	<p>・新型コロナウイルスの影響から地区の会合等の開催が難しい中、18地区で3つの計画の説明会を開催でき、理解を得ることができたと考える。いくつかの地区で、課題解決に向けて新たな取り組みを始め、社協として協力できることを提案してきた。しかし、新型コロナウイルスの影響で、地区福祉プランを実施することができていない地区があることも現状である。令和4年度は、各地区を回りプランの実施状況の確認と1年目の評価を地区と一緒に行いたいと考えている。</p>	社協判定
		3
評価委員会の意見	<p>・全地区で計画の説明を行い、地区福祉プランが推進していけるよう支援に力をいれてほしい。また、どこまで実施できているか評価は重要であり、地区と一緒に取り組んでいくことが大切である。</p> <p>・モデル事業(モデル地区)を実施してみたの結果報告をし、他の地区の取組の参考につなげることが大切である。</p>	総合判定
		3

【判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	<p>・地区福祉プランの進捗状況の確認と評価を行い、その評価をもとに、プランどおり地域福祉活動が推進されるよう地区と一緒に取り組んでいく。また、地区の福祉活動の好事例やモデル事業を紹介し、他地区の取組みの参考となるよう支援する。</p>
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和3年度評価シート②

地域福祉活動 計画体系	基本目標	1 住民主体の地域づくり
	方向性	(1) 組織の充実と地域福祉に対する意識の醸成
	推進目標	② 福祉を身近なものに感じてもらえるよう福祉教育の充実を図ります
	実施計画	福祉教育の充実【重点計画】
	ねらい	子どもから大人まで、福祉について知る機会を多くつくり、福祉に関心を持つ人を増やします。

指標の名称		R3	R4	R5	R6	R7
成果を 主たる 指標	小中学校等への授業への協力回数	14回				
	地域や企業に向けた出前講座の実施回数	3回				
主な 取り組み	■福祉教育プログラム検討会の開催 ・令和4年度に福祉教育推進検討委員会を開催する予定で、社協内で検討会議を行ってきた。(社協) ・各小中学校に対して、福祉教育のプログラムの提案を行った。また、福祉の授業を行う際は、その都度、学校とプログラムについて協議し実践した。(学校と社協) ・障がい者と福祉教育プログラムの検討を行った。(障がい者と社協) ・とнамисセントラルライオンズクラブと福祉教育について意見交換をした。(企業と社協)					
	■地域や企業に向けた出前講座の実施 ・地域住民に対して、民生委員と協力し、車いすの使い方や体験の講習会を開催した。(民生委員と地域住民、社協) ・とнамисセントラルライオンズクラブの例会にて、災害ボランティアセンターの説明と災害時における企業との協力体制について協議した。(企業と社協) ・ふれあい・いきいきサロンにて、高齢者の食生活についての出前講座を開催した。(地域住民と社協) ・サロングループや市内企業、各地区福祉推進協議会等に出前講座の一覧を配布し、出前講座の活用の働き掛けを行った。(法人連絡会と社協) ・とнамисセントラルライオンズクラブ、とнамис青年会議所、民生委員児童委員を対象に災害ボランティアネットワークに関する研修会を開催した。(企業と民生委員、社協)					

成果と課題	・小学校への福祉教育の講師である障がい者の方と一緒にプログラムを検討し実践することができた。しかし、児童への効果等の評価ができていないことが課題である。 ・社協内で福祉教育について意見交換を行ってきた。それを踏まえ、令和4年度は、学識経験者、障がい者、教育関係者等の方に参加していただく、福祉教育推進検討委員会の開催を計画している。 ・子どもから大人まで福祉に関心を持てるような取り組みを、計画④「地域を支える人材の発掘と育成」と併せて、福祉教育推進検討委員会の中で協議していくことが必要である。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・今後の地域を支える担い手となる子どもへの福祉教育は重要である。単発ではなく継続性のあるプログラムを実施してほしい。 ・1回1回のプログラムの実施状況の評価するのではなく、1回目と3回目の考えの変化や実生活の中で感じたことなどを評価したら良いのではないかと。また、学んだことを実践する場があると良い。 ・いろいろな障がいがあるので、様々なプログラムを用意することが重要である。	総合判定
		3

【判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・福祉教育推進検討委員会において、その場だけの授業・講座で終わるのではなく、学んだことが活かせる、実践できる場を提供し理解が深まる福祉教育プログラムを検討していく。
--------	------------------------------------------------------------------------------------

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和3年度評価シート③

地域福祉活動 計画体系	基本目標	1 住民主体の地域づくり
	方向性	(2) 活動の中心となる担い手の育成
	推進目標	(3) 地区の福祉活動者の支援を行います
	実施計画	「我が事情報」の勉強会の開催
	ねらい	将来の自分に役立つ情報を知るとともに、見守る側、お手伝いする側としての知識を広げます。

指標の名称		R3	R4	R5	R6	R7
成果を 図る主 な指標	福祉活動者向けの研修会の開催回数	13回				
主な 取り組み	■地区の福祉活動者向けの福祉に関する研修会の開催					
	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員児童委員の定例会にて、社協の事業についてミニ研修を4回開催した。(民児協と社協) 地域福祉コーディネーターと民生委員児童委員、多職種の福祉関係者を対象にケアネット活動推進会議を懇談会形式で開催し、地域の福祉課題について話し合った。(福祉活動者と社協) 地域福祉コーディネーター連絡会を2回開催した。3回目は新型コロナウイルスの影響のため中止した。(コーディネーターと社協) 自治会長や福祉活動者が参加するケアネット研修会を7地区で開催した。(地区と社協) 					
主な 取り組み	■地区福祉推進協議会に出向き、住民への福祉情報の提供					
	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア養成講座や福祉イベント等の情報を各地区に配布し、地区住民に回覧板として周知をお願いした。(地区と社協) 地区の福祉活動者を対象に福祉課題のアンケートを実施し、その結果を社協ホームページで報告し地区住民が見られるようにした。(社協) 地区福祉推進協議会の総会やケアネット会議など自治会単位の研修会などで、福祉の現状、社協の役割や事業の説明などを行った。(地区と社協) 					

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響により、市全体や地区単位の福祉サポーターの研修会を開催することができなかった。そのため、自治会やケアネット会議等の小さな単位で福祉サポーターの研修会を行った。令和4年度から福祉サポーターの新たな任期となるため、役割の説明や福祉情報の提供の場を開催していくことが必要である。 福祉活動者に対してアンケートを実施したところ、福祉サポーターの「わからない」という回答が多くみられ、福祉サポーターの役割の周知や理解が進んでいないことが見えてきた。福祉サポーターへの役割の伝え方、理解を得ていくかが課題である。 	社協判定
		2
評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> 福祉サポーターの研修会を実施し、地域福祉と役割の理解を図っていくことが重要である。研修会だけでなく、福祉サポーターが活躍できる場を作ることも重要である。 地域の福祉活動者の横の連携が図れることで、それぞれの役割を理解できると思う。 	総合判定
		2

【判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 福祉サポーターと民生委員児童委員や地域福祉コーディネーターとの連携を推進するとともに福祉サポーターの役割をわかりやすく伝え、活動できる場を提案していく。
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和3年度評価シート④

地域福祉活動 計画体系	基本目標	1 住民主体の地域づくり
	方向性	(2) 活動の中心となる担い手の育成
	推進目標	④ 福祉活動の担い手の育成と新たな人材の掘り起こしを行います
	実施計画	地域を支える人材の発掘と育成【重点計画】
	ねらい	地域で行われている福祉活動について知ってもらい、世代を問わず、地域で活躍する新たな人材発掘につなげます。

指標の名称		R3	R4	R5	R6	R7
成果を図る 主な指標	福祉活動者数(ケアネット等参加延べ人数)	592人				
	福祉サポーター数	396人				
	ボランティア養成講座受講者数	34人				
主な取り組み	■現在行っているボランティア活動や地域の福祉活動者の情報を発信 ・広報とFMとなみで地域福祉コーディネーターと福祉サポーターの役割等について発信した。(社協) ・広報でボランティア活動者の情報を発信した。(社協)					
	■地区の福祉活動を発信し協力者を発掘 ・地区福祉推進協議会に地域福祉コーディネーターと福祉サポーターの役割を説明し、令和4年度から活動して下さる方の推薦をお願いした。(地区社協と社協)					
	■地区内の専門分野で活躍する人材の把握と活用 ・現在、福祉活動に携わっている方に福祉活動に関するアンケートを実施し、活動の現状を把握した。(社協)					
	■地域の福祉活動者への福祉情報の提供 ・民生委員児童委員の定例会にて、市や社協の事業についてミニ研修の実施や福祉情報の発信を行った。(民生委員と市、社協) ・地域福祉コーディネーター連絡会を開催し、福祉情報の発信を行った。(コーディネーターと社協)					

成果と課題	・福祉活動者の現状を知ることが目的にアンケートを実施した。福祉サポーターの回答から「何をすればいいのかわからない」ことが課題としてあげられ、新たな人材の発掘と育成を図るためには、「何をしたいのか」を明確にしていくことが重要である。目的を明確とした講座の開催や情報の提供を行っていくことが必要である。 ・令和4年度開催予定の福祉教育推進検討委員会において、人材育成についても検討していく。	社協判定
		1
評価委員会の意見	・ボランティア養成講座を受講した方が活動できるよう活動の場の創出など支援することが重要である。 ・福祉サポーターの役割をわかりやすくすることが、福祉活動への参加につながる。役割を一方的に発信するのではなく、福祉サポーターと検討しながら伝え方を考えていくことが重要である。	総合判定
		2

【判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・住民に地域の福祉ニーズについてわかりやすく伝え関心を持ってもらい、活動してみようと思える気軽な場を提案していく。
--------	-----------------------------------------------------------

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和3年度評価シート⑤

地域福祉計画体系	基本目標	2 みんなで支える地域づくり
	方向性	(1) ボランティア活動の推進
	推進目標	⑤ ボランティア活動者の活躍の場を広げます。
	実施計画	ボランティア活動の推進
	ねらい	ボランティアを身近に感じられる体制づくりや、ボランティア活動の紹介などを通して活動の場を拡充していくなど、ボランティアセンターの機能の強化を図ります。

指標の名称		R3	R4	R5	R6	R7
成果を図る 主な指標	ボランティア登録者数	4,825人				
	レッツボランティアとなみポイント制	11,527P				
	シニア元気あっぷポイント事業	2,006P				

主な取り組み	■ SNS等を活用したボランティア情報の発信	
	・とらプロと社協ホームページ、広報で講座やイベント等の案内を行った。(社協)	
	・ボランティアフェスティバルは、新型コロナウイルスの影響により中止した。(実行委員会)	
	■ 企業と連携した啓発活動の推進	
	・イオンモールとなみで、「ボランティア活動紹介展」を開催し、ボランティア体験や市内ボランティアのパネル展示を行った。(企業とボランティア連協、社協)	
	■ 生涯学習としてのボランティア活動の推進	
	・手話奉仕員養成講座を開催した。(社協)	
	・3つのボランティア養成講座を開催した。(社協)	
	■ 専門分野で活躍する人材の把握と活用	
	・小学校での出前講座では、市内で活躍するボランティアに活動の様子を話してもらった。(学校とボランティア、社協)	
・中学生のボランティアスクールでは、支援を得ながら一人暮らしをする高齢者の生活実態を知ることや、ボランティアで活躍する高齢者との交流を図った。(高齢者と社協)		
・障がい者に福祉教育の講師となってもらい小学校で授業を行った。(学校と障がい者、社協)		
■ ニーズに応じたボランティア養成講座の開催		
・移動支援が必要な方のための「ふれあい号の運転ボランティア養成講座」を開催した。(社協)		
・子育てを支援するため「絵本読み聞かせボランティア養成講座」を開催した。(社協)		
・学童や子育てを支援するため「工作ボランティア養成講座」を開催した。(社協)		
■ 短時間ボランティア、自宅で出来るボランティアなど新たなボランティア活動の仕組みづくり		
・企業等のフードドライブの実施を支援し小さなボランティア活動を推進した。(企業と社協)		

成果と課題	<p>・ボランティアフェスティバルのマンネリ化が指摘されている中で、イオンモールで「ボランティア活動紹介展」を開催したことで、より広く市民に市内のボランティア活動を知ってもらう機会となった。特に親子連れが多かった。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響によりボランティア活動が大きく制限されたこととグループの高齢化により活動の縮小がみられる。コロナ禍での活動の工夫やSNS等によるボランティア活動の発信をして新たな活動者の発掘につなげることが課題である。</p>	社協判定 2
委員会の意見	<p>・地域ニーズに即したボランティア養成講座を開催することが重要である。</p> <p>・より多くの市民にボランティアに触れる機会ができたことは良かったと思う。ボランティアフェスティバルについては、新たな方法を検討していくことが重要である。</p>	総合判定 2

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

向の今後	<p>・地域ニーズを把握し、そのニーズに対応するボランティア養成講座を開催するとともに、活動できる場を提案していく。</p>
------	----------------------------------------------------------------

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和3年度評価シート⑥

地域福祉計画体系	基本目標	2 みんなで支える地域づくり
	方向性	(2) 地域における絆の強化
	推進目標	⑥ 地域について学ぶ場やふれあいの場の充実を図ります
	実施計画	地域での交流の場の活性化
	ねらい	子ども、高齢者、障がい者など、誰もがお互いを尊重し、地域の中で積極的に関わりがもてるような居場所や学びの場を提供し、交流活動を推進します。

指標の名称		R3	R4	R5	R6	R7
な 図る 成果を 主 指 標	子育て支援事業参加人数	475人				
主な 取 組 み	<p>■子どもや障がい者に対する地域行事などへの参加呼びかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子と障がい者と一緒にケーキ作りをするイベントを予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止した。(福祉施設と社協) 地域のりんご農家でりんご摘みとアップルパイ作り体験を行い、地域の方と交流を図った。(地域と福祉センター、社協) 					
	<p>■福祉センターを活用し、多様な世代が集う交流拠点となるような場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 各福祉センターの特色を活かして、子どもやその親を対象にしたイベントや30～50代の方も興味を持てる教室を開催した。(福祉センター) 北部苑で若い世代を対象にした「となみほくぶマルシェ」を開催した。(北部苑) 夏休みなどの長期休みに児童の居場所となるよう、苗加苑と北部苑でわんぱく広場を開催し、ボランティアや福祉センター利用者との交流を図った。(福祉センターと社協) ふれあいいいききサロン活動のメニューとして、福祉センターの利用を促した。(社協) 絵本読み聞かせボランティア養成講座の実習を麦秋苑で行い、ボランティアと子どもとの交流を図った。(麦秋苑と社協) 幅広い世代が利用しやすくなるようWi-Fi環境を整えた。(北部苑) 					

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響により、地域でのイベントの開催ができず、子どもや障がい者、大人が触れ合うことが難しい状況である。 各福祉センターの特色を活かし、子どもや親子で参加するイベントを開催したことで、福祉センターの若い方の利用が進んだ。イベントを通して、子どもと地域のボランティアや高齢者との触れ合いが見られた。福祉センターを利用した子どもが春休みに友達と一緒に利用し、勉強やちょっとしたボランティア活動など居場所的な役割も見られた。 	社協判定
		2
評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者理解を推進するうえでも、地域と障がい者との交流を進めてほしい。また、障がい者に係る指標もあげてほしい。 福祉センターが子どもから高齢者まで広い世代が交流する場になってきていることは良い。 コロナ禍で地域での交流の場がなくなっているため、地域における交流の場づくりを支援していくことが重要である。 	総合判定
		2

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	福祉センターが多世代、多様な方々が集まり、ふれあいの場となるよう取り組みを推進していく。
--------	----------------------------------------------

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和3年度評価シート⑦

系 地域 福祉 計画 面 体	基本目標	2 みんなで支える地域づくり
	方向性	(2) 地域における絆の強化
	推進目標	⑦ 支え合う福祉活動を推進します
	実施計画	見守り活動の推進【重点計画】
	ねらい	日常的な住民同士の見守り活動を推進し、お互いさまで支えあう地域づくりを支援します。

指標の名称		R3	R4	R5	R6	R7
主な 指標 成果を 図る	ケアネットチーム数	206 チーム				
	見守り配食数	3,438 食				
	ふれあい・いきいきサロン数	133 サロン				
主な 取り 組み	<p>■学校、家庭、地域が連携して子どもを見守り育ていく環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種による事例検討会をきっかけに、学校、地域、各関係機関が集まり、課題の多いひとり親世帯のケアネットチームを作り、地域を含めた支援体制を構築した。(市内関係機関と地域) ・地区において、子育てボランティアグループが地区の実情に合わせて活動している。(ボランティア) 					
	<p>■支援が必要な人への見守り体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区に出向きケアネット活動の研修会を開催し、ケアネットの理解と協力をお願いした。(地区と社協) ・広報でケアネット活動について発信した。(社協) ・ケアネット活動推進会議を開催し、見守り体制の現状と課題について話し合った。(福祉活動者と関係機関、社協) 					
	<p>■いきがいがづくり、仲間づくりとしての居場所の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブの研修会に参加しケアネットや社協の事業の説明を行い、それぞれの役割を確認し連携を図った。(老人クラブと社協) ・ふれあい・いきいきサロン活動の支援を行った。(サロンと社協) 					
	<p>■研修会等を開催し、推進地区の取り組みの紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に地域の好事例の紹介をおこなうシンポジウム形式の研修会を開催するため、対象地域と協議した。(地区と社協) ・ふれあい・いきいきサロン代表者の交流会を開催した地区があった。(地区と社協) 					
	<p>・ひとり親世帯に対して学校を含むケアネットチームが立ち上がった。この事例を経験に、子どもを抱える要支援世帯の支援体制を構築していく。</p> <p>・ケアネット推進会議により、ケアネット活動の現状と課題を把握することができた。課題として、地域ではケアネット活動を知らない方が多いことと協力者がいないことがあげられる。これらの課題に対して、他の推進目標と併せて取り組んでいく必要がある。</p> <p>・令和4年度に見守り活動の好事例を3つ紹介するシンポジウムを開催する予定であり、地区の見守り活動の参考にしていただく。</p>					
	<p>・子育て世帯のケアネットチームができたことはとても良い。障がい者世帯のケアネットを推進してほしい。</p> <p>・ケアネット活動の好事例(子育て世帯など)を福祉関係者等に積極的に報告してほしい。</p>					
	<p>・ケアネット活動やサロン活動の好事例を研修会や出前講座などを通して紹介し、地域の方々が参加しやすい見守り活動につなげていく。</p>					

成果と課題	<p>・ひとり親世帯に対して学校を含むケアネットチームが立ち上がった。この事例を経験に、子どもを抱える要支援世帯の支援体制を構築していく。</p> <p>・ケアネット推進会議により、ケアネット活動の現状と課題を把握することができた。課題として、地域ではケアネット活動を知らない方が多いことと協力者がいないことがあげられる。これらの課題に対して、他の推進目標と併せて取り組んでいく必要がある。</p> <p>・令和4年度に見守り活動の好事例を3つ紹介するシンポジウムを開催する予定であり、地区の見守り活動の参考にしていただく。</p>	社協判定
		3
評価委員会の意見	<p>・子育て世帯のケアネットチームができたことはとても良い。障がい者世帯のケアネットを推進してほしい。</p> <p>・ケアネット活動の好事例(子育て世帯など)を福祉関係者等に積極的に報告してほしい。</p>	総合判定
		3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	<p>・ケアネット活動やサロン活動の好事例を研修会や出前講座などを通して紹介し、地域の方々が参加しやすい見守り活動につなげていく。</p>
--------	-----------------------------------------------------------------------

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和3年度評価シート⑧

地域福祉計画体系	基本目標	3 安心して暮らせる地域づくり
	方向性	(1) 相談支援体制の充実
	推進目標	⑧ 複雑に重なりあう困りごとに対応していきます
	実施計画	複合的な課題に対する相談支援体制の強化【重点計画】
	ねらい	多様な生活課題に対応していくために、各種専門機関と連携し、身近で気軽な相談場所の設置と、適切な助言と支援を受けることができるよう体制を整備します。

指標の名称		R3	R4	R5	R6	R7
主な指標 成果を図る	事例検討会の開催回数	11回				
	福祉総合相談件数	4,645件				
	生活困窮者自立支援事業相談件数	59件				

主な取り組み	■福祉総合相談事業の周知
	・広報、社協ホームページ、地域の掲示版などで相談会の案内をした。(市社協) ・令和4年度から、地域の身近な相談窓口の設置を進めるため3地区とモデル事業について協議した。(3地区と社協)
	■事例検討会や勉強会を通し各相談機関とのネットワークを強化
	・2カ月に1回、市内の相談支援事業所、福祉関係者、弁護士等に出席してもらい、複合的な課題を抱える事例の検討を行った。(関係機関と市、社協) ・事例検討を行ううえで必要なスキル(ファシリテーション)の研修会を開催した。(関係機関と市、社協) ・市内の福祉関係機関と行政を対象に重層的支援体制の構築に向けた研修会を開催した。(関係機関と市、社協)
	■広報や回覧板、HP、SNSなどを活用し、気軽に相談できる体制づくり
	・福祉の情報、特に社協に関わる情報を積極的に社協HP、となブロにて発信した。(社協) ・令和4年度からモデル事業として行う、地域の身近な相談窓口開設を、地区社協を通じて地域住民に回覧板にて周知した。(地区社協と社協)

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな相談窓口として、モデル的に「出張相談」を行う予定である。 ・事例検討会が定着し、福祉専門職だけでなく弁護士や地域の方なども参加し、多様な視点や取り組みを知ることができた。また、多様な課題を抱える世帯に対して、多職種がチームとなって支援する重要性の認識が広まった。しかし、実務的にはまだ連携が十分にできておらず、課題解決につながらないケースがある。各関係機関の役割を理解し、関係機関同士が気軽に声をかけ合える関係づくりが必要である。 ・より多くの方が相談できるようSNSの活用が考えられるが、社協職員がSNSについての理解が少ないので、活用の検討が進んでいない。 	社協判定
		3
評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な相談窓口(出張相談)ができたことは良い。様々な形態の相談窓口の設置と実施に向けて検討してほしい。 ・事例検討会を継続し、多職種の連携に繋がれば良い。 ・SNSの活用を積極的に行ってほしい。 	総合判定
		3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な課題を抱える世帯に対して、様々なアプローチやチームで支援できるよう、事例検討会などを通して専門的知識の向上を図るとともに、各関係機関との連携を深めていく。併せて多様な相談窓口の設置を検討していく。
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和3年度評価シート⑨

地域福祉計画体系	基本目標	3 安心して暮らせる地域づくり
	方向性	(2) 防災、防犯、緊急時体制の整備
	推進目標	⑨ 災害に強い地域づくりを目指します
	実施計画	災害救援ボランティアセンターの体制強化
	ねらい	災害発生時のボランティア活動を効率よく行うために、災害救援ボランティアセンターの機能強化を図るとともに、センター運営について市との連携を図ります。

指標の名称		R3	R4	R5	R6	R7
な 図 成 指 関 果 標 主 る を 主	訓練・研修への参加者数	25人				

主 な 取 り 組 み	<p>■市と社協との災害に関する連携強化</p> <p>・市の防災訓練と合同に行われる「災害救援ボランティアセンター運営訓練」と「福祉避難所設置訓練」は新型コロナウイルスの影響により中止とした。(市と社協)</p>
	<p>■ボランティア団体、企業など民間組織との連携強化</p> <p>・とнамiセントラルライオンズクラブの例会にて、災害ボランティアセンターの説明と災害時に企業との協力体制について話し合いを行った。(企業と社協)</p> <p>・とнамiセントラルライオンズクラブと市と市社協の3者で「災害時における連携に関する協定」を締結した。(企業と市、社協)</p> <p>・とнамi青年会議所と災害時における協定の締結に向けて協議を行った。(企業と社協)</p>
	<p>■実際の災害を想定した訓練の実施</p> <p>・市の防災訓練と合同で行われる「災害救援ボランティアセンター運営訓練」と「福祉避難所設置訓練」は新型コロナウイルスの影響により中止とした。(市と社協)</p> <p>・上記の訓練が中止となったため、社協職員のみで「ニーズマッチングカード」による机上訓練を実施した。(社協)</p>
	<p>■地域住民を交えた訓練の実施</p> <p>・市の防災訓練と合同で行われる「災害救援ボランティアセンター運営訓練」と「福祉避難所設置訓練」は新型コロナウイルスの影響により中止とした。(地域と市、社協)</p>
	<p>■災害救援ボランティアセンターの支援体制ネットワークの構築</p> <p>・とнамiセントラルライオンズクラブ、とнамi青年会議所、民生委員児童委員に参加いただき、災害時の連携についての研修会を開催した。(企業と民生委員、社協)</p>

成果と課題	<p>・企業と災害時における協定を結ぶことができた。協議や研修会等を進めることで、それぞれの役割をイメージしてきたところであったが、運営訓練が中止となったことで、具体的な役割が伝わらない様子である。訓練を通して、イメージを深めていくことが重要である。</p>	社協判定
		3
評価委員会の意見	<p>・訓練を実施し企業等との連携を深めるとともに、見えてきた課題を検討していくことが重要である。</p>	総合判定
		3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	<p>・実際の災害を想定した運営訓練を通して、市と社会福祉協議会、企業がそれぞれの役割を理解するとともに連携を深めていく。</p>
--------	-------------------------------------------------------------------

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和3年度評価シート⑩-1

系 地 域 福 祉 計 画 体	基本目標	3 安心して暮らせる地域づくり
	方向性	(3) 安心して暮らせる基盤づくり
	推進目標	⑩-1 福祉の情報をわかりやすく伝えます
	実施計画	情報発信や情報共有を行えるプラットフォームづくり【重点計画】
	ねらい	地域の中で誰もがが必要な福祉サービスなどを安心して利用できるように、情報収集と情報発信の充実を図ります。

指標の名称		R3	R4	R5	R6	R7
成果を 図る 主な 指 標	HP・ブログの更新回数	167回				

主な 取 組 み	<p>■市内の福祉情報を集約し受発信する方法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協ホームページ検討委員会を開催し、社協の情報発信について検討した。(社協) ・社協ホームページの更新を簡単に行えるようシステムを変更し、リアルタイムの更新に努めた。(社協) ・福祉情報の発信について、社協内で福祉情報プラットフォーム検討チームを作り検討を行った。(社協)
	<p>■広報や回覧板、SNS等を活用し、誰でもわかりやすい情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向けには回覧板、若い世代向けにはホームページなど、情報とターゲット(対象者)別に発信ツールを変えた。(社協) ・写真などの画像を増やし、文章を減らしたページ作りを行い、目に止まるよう工夫に心掛けた。(社協) ・新しい情報のリアルタイムな更新と終了情報の早めの削除を行い、情報整理を行った。(社協)

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・社協内で検討チームを作り、社協ホームページ及び情報発信について協議した。社協ホームページのシステムを変更することで、更新回数の増とリアルタイムに情報を発信することができた。 ・SNS等の新しい発信ツールについて検討したが、社協職員の知識が少なく活用の検討は進まなかった。情報発信の知識のある方や専門家などにも検討の協力を得ることが必要である。 ・市の情報発信と連携を図ることでより多くの市民に発信できると考えられ、市との情報交換や連携が必要である。 	社協判定
		2
評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人にはSNSはとても有効性の高いツールであるので、学生などを活用し情報を発信してはどうか。SNSの積極的な活用は重要である。 	総合判定
		2

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の人材を活かして、SNSなどの情報ツールによる情報発信を行っていく。
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和3年度評価シート⑩-2		
地域福祉計画体系	基本目標	3 安心して暮らせる地域づくり
	方向性	(3) 安心して暮らせる基盤づくり
	推進目標	⑩-2 地域の中の社会資源を活用し、多様な福祉課題に対応していきます
	実施計画	移動支援など生活課題の検討
	ねらい	地域の社会資源を活用し、移動に不便を感じておられる人の移動支援や生活課題などについて検討します。

指標の名称		R3	R4	R5	R6	R7
主な指標 成果を図る	ふれあい号の利用者数(延べ)	477人				
	福祉バス利用回数	25回				
主な取り組み	■ふれあい号のあり方の検討 ・運転ボランティアが減少しており、今後の運営方法について社協内で検討した。(社協) ・運転ボランティアの法定講習の受講機会を増やし、養成講座修了者の確保に努めた。(企業と社協)					
	■福祉バスの活用 ・新型コロナウイルスの影響により、ふれあい・いきいきサロンやボランティア団体の利用が大きく減少した。(社協)					
	■既存の社会資源の確認と活用 ・3地区において、既存の住民が集まる居場所に専門職が出張する相談窓口機能を付加する。(3地区と社協) ・フードバンクが市内にでき、困窮者支援やフードロスを減らす活動が行えるようになった。(NPOと社協)					
	■市内の福祉団体と生活課題に対する対応の検討 ・生活支援体制整備事業において、生活課題の把握と支援対策を協議している。(市と関係機関、社協) ・実際に起こった孤独死を事例に対応等の協議を行った。(市と関係機関、社協)					

成果と課題	・地区と社協がそれぞれの課題を協議することで、既存の資源に新たな機能を付加することができた。新たな形での取り組みをPDCAサイクルで実施していくことが重要である。 ・孤独死の事例を協議したことで、民生委員を対象にした研修会につながった。新しい福祉課題や身近な生活課題を協議する場を積極的に作っていくことが重要と考える。	社協判定
		2
評価委員会の意見	・移動支援への取り組みが不十分である。ふれあい号の運転ボランティアの確保やデマンドタクシーとの連携など検討を行ってほしい。	総合判定
		2

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・ふれあい号の安定的運行につながるよう、運転ボランティアの確保に努めていく。また、福祉バスの活用や地域内の移動について検討していく。
--------	--------------------------------------------------------------------